

平成26年8月期(50期) 第2四半期決算補足資料

平成26年4月3日

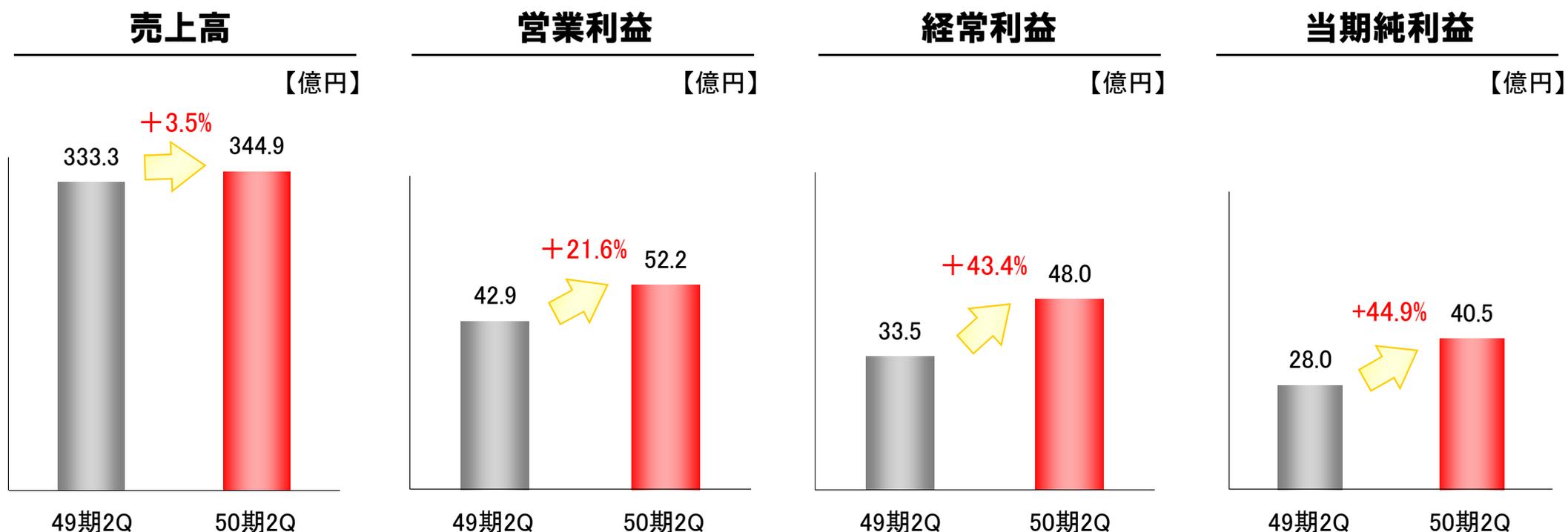


目次

1. 業績関連	...	P2
2. 財務／経営指標関連	...	P7
3. 事業関連	...	P12
4. 第2四半期TOPIX	...	P16
5. 免責事項	...	P20

|| 業績関連 || 50期第2四半期連結業績(前期対比)

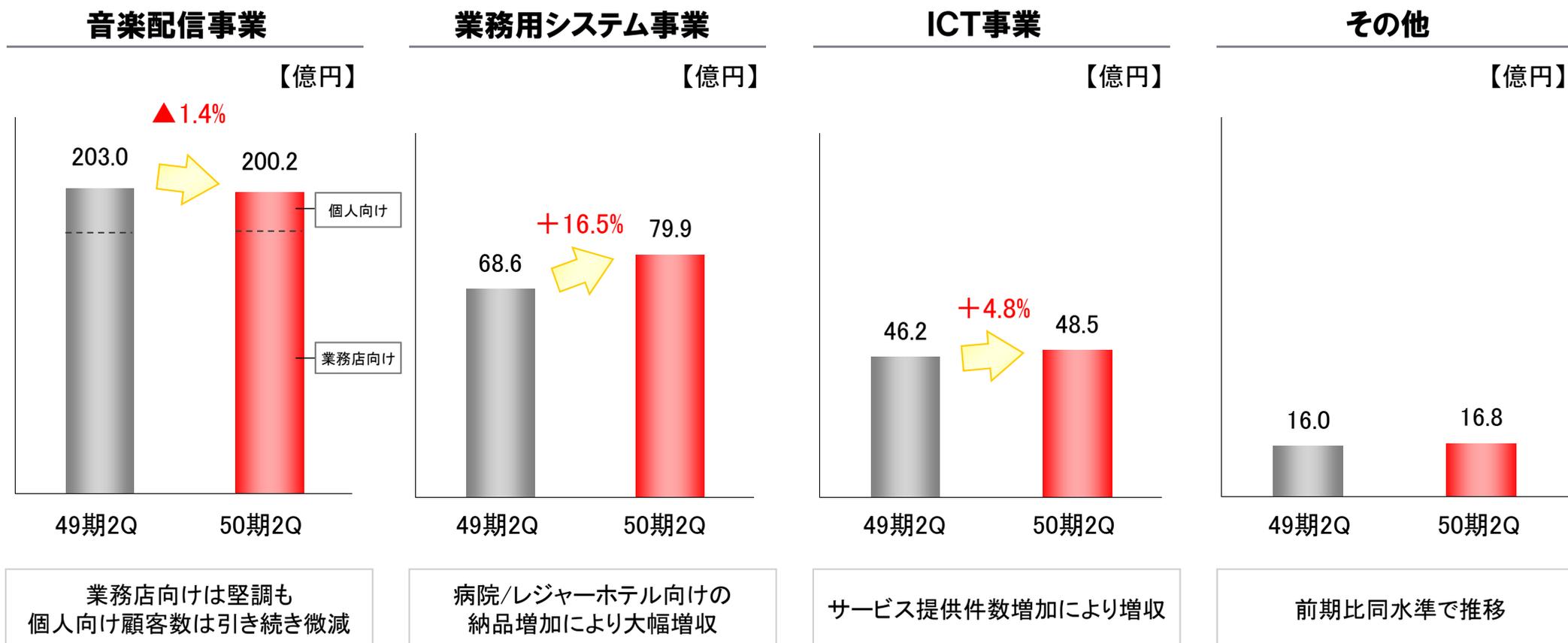
- 売上高は、第1四半期に引き続き業務用システム事業、集客支援事業、ICT事業が堅調な推移だったため、前年同期比の増収割合は第1四半期決算時の2.4%よりも拡大
- 上半期における各段階利益は、各事業の堅調な推移により前年同期比で営業利益が20%超、経常利益／当期純利益が40%超の大幅増益を達成
(※但し、第3四半期にリファイナンス等を含む財務・資本施策関連コストを計上予定)



※ 実績値は端数切捨て、パーセンテージは小数点第2位以下を四捨五入

|| 業績関連 || 50期第2四半期経営成績(前期対比)

セグメント別 売上高



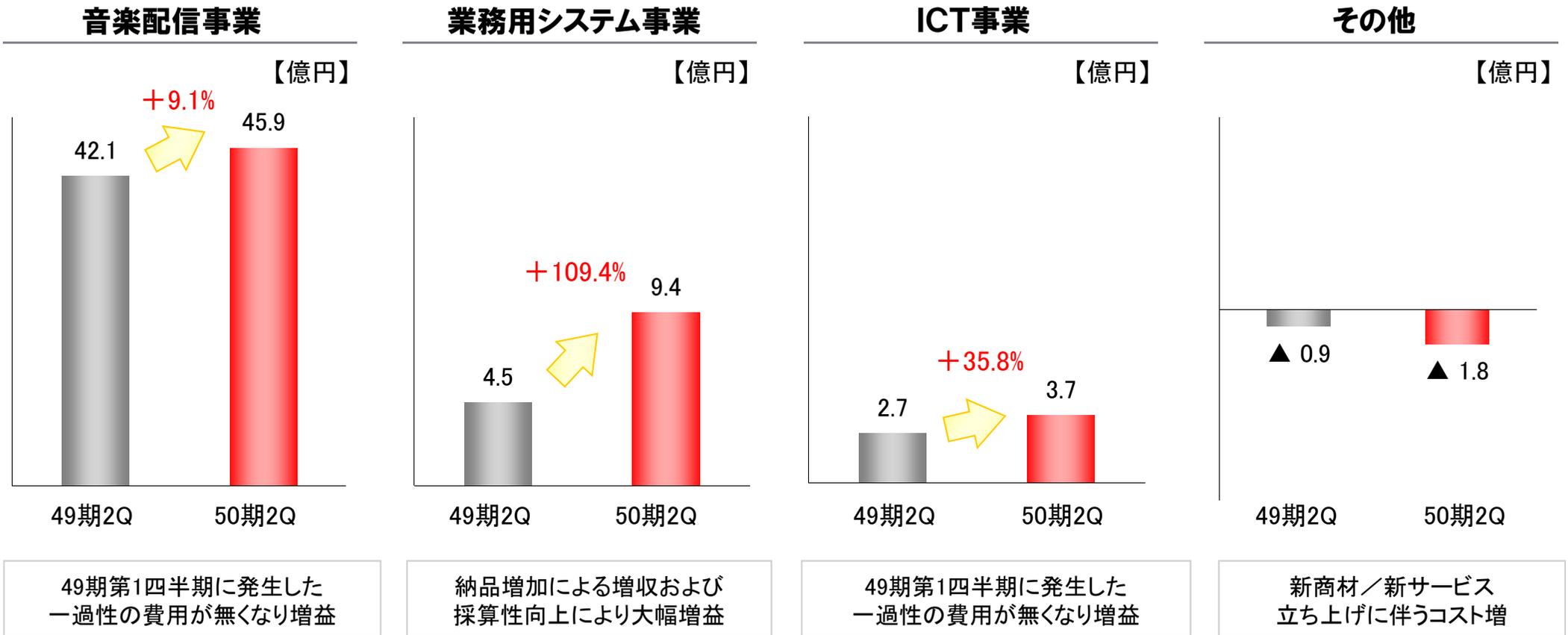
(参考) 業務店向け/個人向けの内訳は当社管理上の指標となります

※ 49期セグメント売上高はセグメント間取引消去等により、連結売上高と△0.5億円の調整を行っております

※ 50期セグメント売上高はセグメント間取引消去等により、連結売上高と△0.5億円の調整を行っております

|| 業績関連 || 50期第2四半期経営成績(前期対比)

セグメント別 営業利益



※ 49期セグメント営業利益はセグメント間取引消去等により、連結営業利益と△5.6億円の調整を行っております

※ 50期セグメント営業利益はセグメント間取引消去等により、連結営業利益と△5.2億円の調整を行っております

|| 業績関連 || 業績予想に対する進捗率

【単位:億円】	上期実績 (A)	通期予想 (B)	通期進捗率 (A÷B)
売上高	344.9	685.0	50.4%
営業利益	52.2	87.0	60.0%
経常利益	48.0	73.0	65.8%
当期純利益	40.5	50.0	81.2%

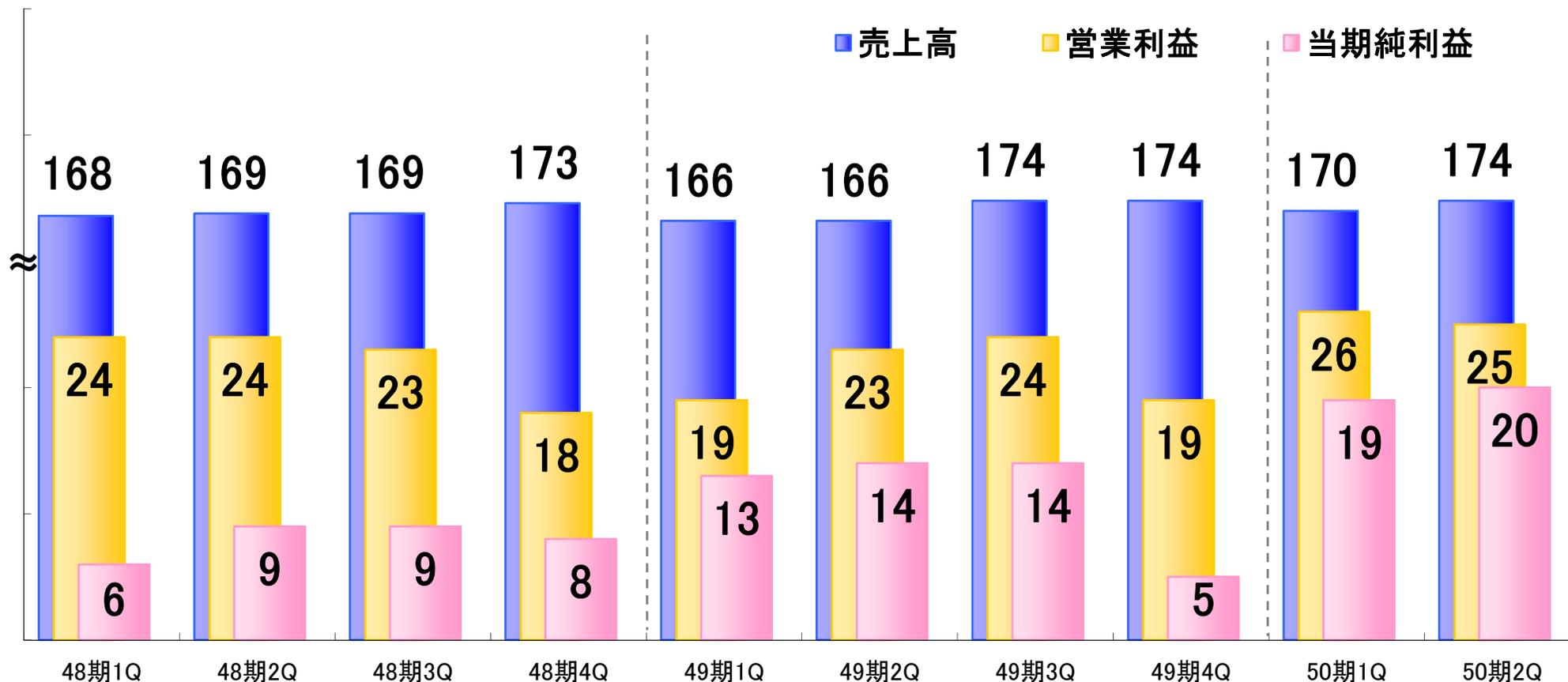
第1四半期と同様、売上高は予想通りの進捗、

営業利益/経常利益/当期純利益は予想を大きく上回って推移

(※但し、第3四半期にリファイナンス等を含む財務・資本施策関連コストを計上予定)

業績関連 連結経営成績推移

【億円】

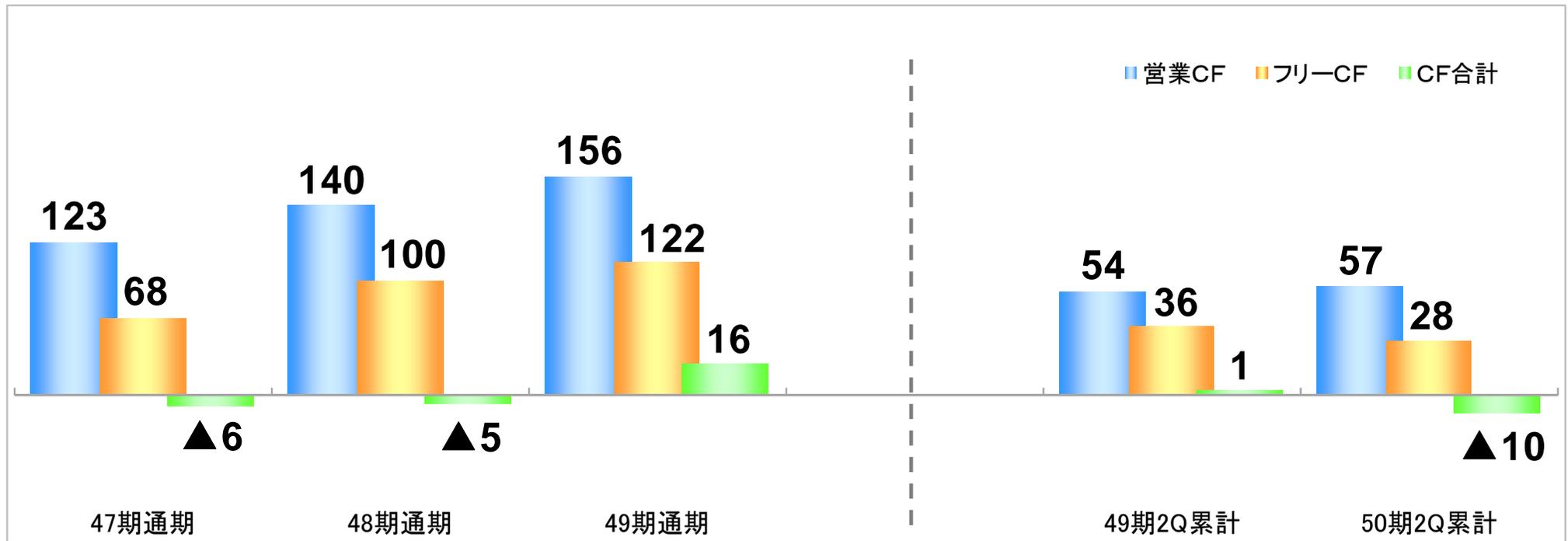


当四半期売上高は、直近2年半で最高値を達成
当四半期営業利益、当期純利益は50期第1四半期と同水準で安定的に推移

※ 各数値は端数切捨て

|| 財務／経営指標関連 || キャッシュフロー推移

【億円】



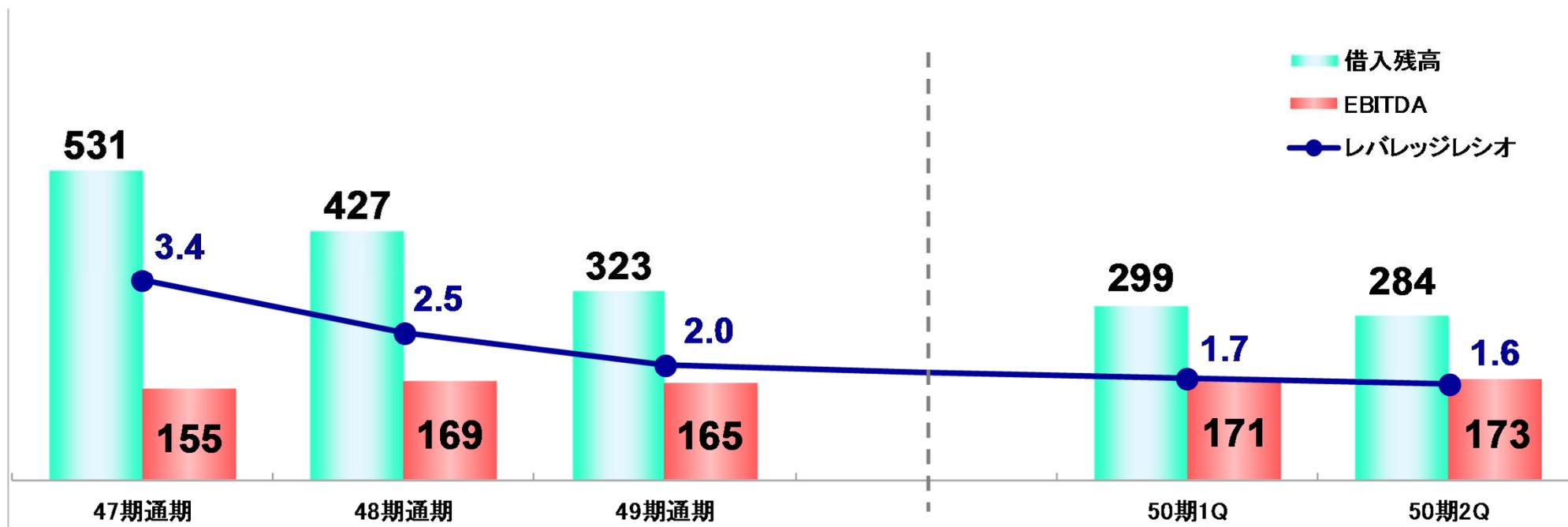
※フリーCF＝営業CF＋投資CF、CF合計＝フリーCF＋財務CF

<営業CF>	123	140	156	54	57
<投資CF>	▲54	▲40	▲33	▲17	▲29
<財務CF>	▲75	▲105	▲105	▲35	▲38

営業CFは前期比増加も、49期の資産売却収入が無くなったため投資CFが支出増となり
フリーCFは前年同期比で約8億円の減少、財務CF(※主に借入弁済)は前期と同水準

|| 財務／経営指標関連 || レバレッジレシオ

【億円、倍】



※EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費

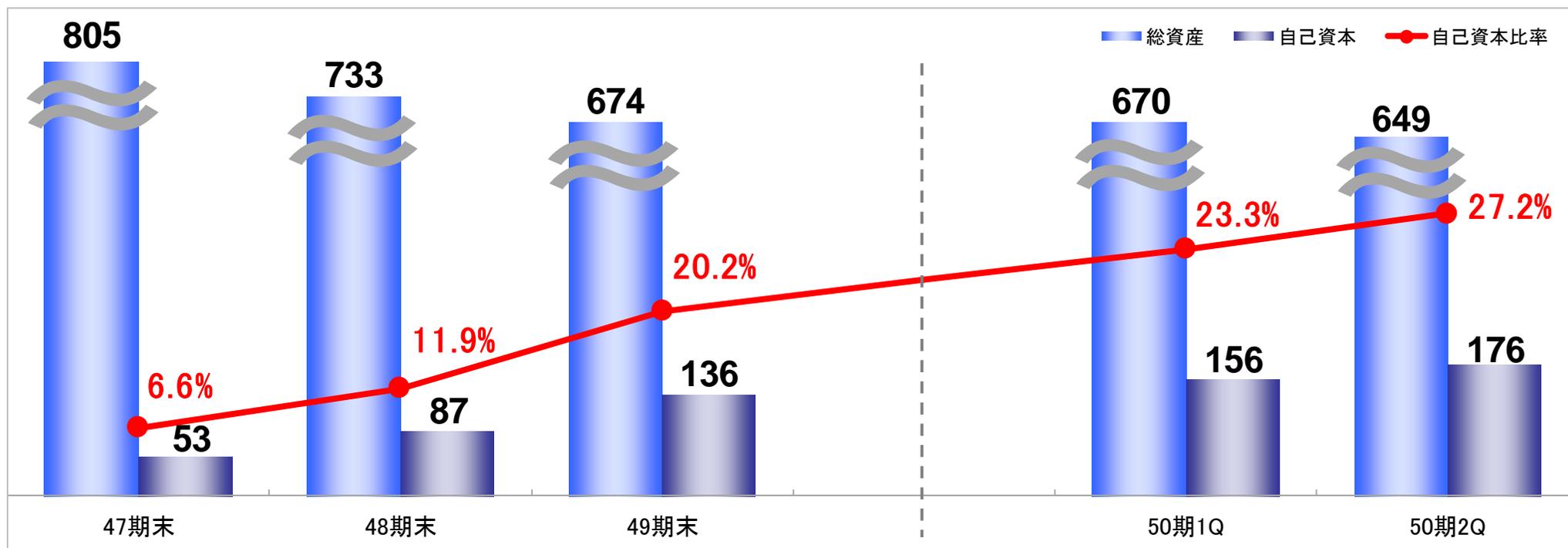
※EBITDAは直近12ヶ月ベースで算出

※レバレッジレシオ = 借入残高 ÷ 直近12ヶ月ベースEBITDA

**営業利益増益が寄与し、直近12ヶ月のEBITDAは49期比で約8億円の増加、
継続した借入金圧縮によりレバレッジレシオは1.6倍と前四半期比で微減**

財務／経営指標関連 自己資本比率

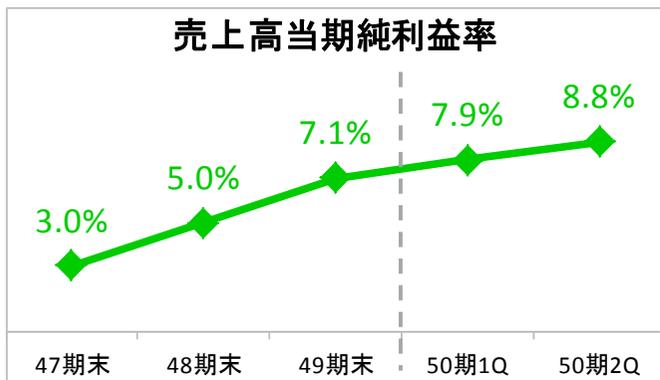
【億円、％】



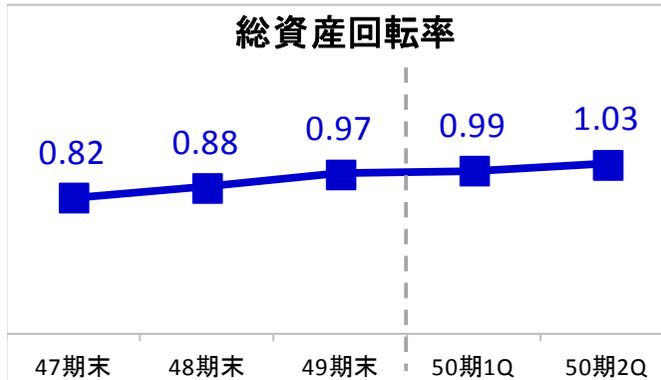
※自己資本 = 純資産 - 新株予約権

総資産は前四半期比で約20億円減少、第2四半期も約20億円の当期純利益計上により自己資本を積み上げ、自己資本比率は27.2%に

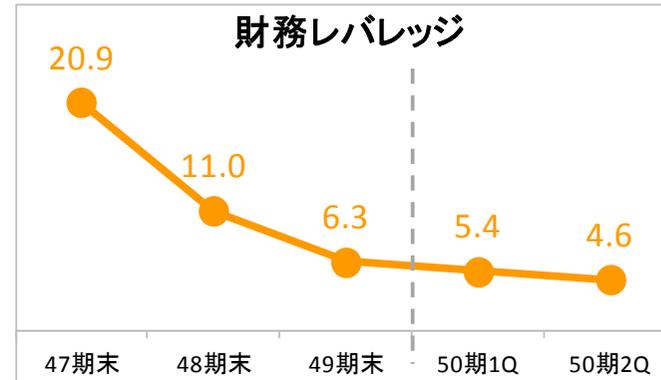
|| 財務／経営指標関連 || 自己資本利益率(ROE)



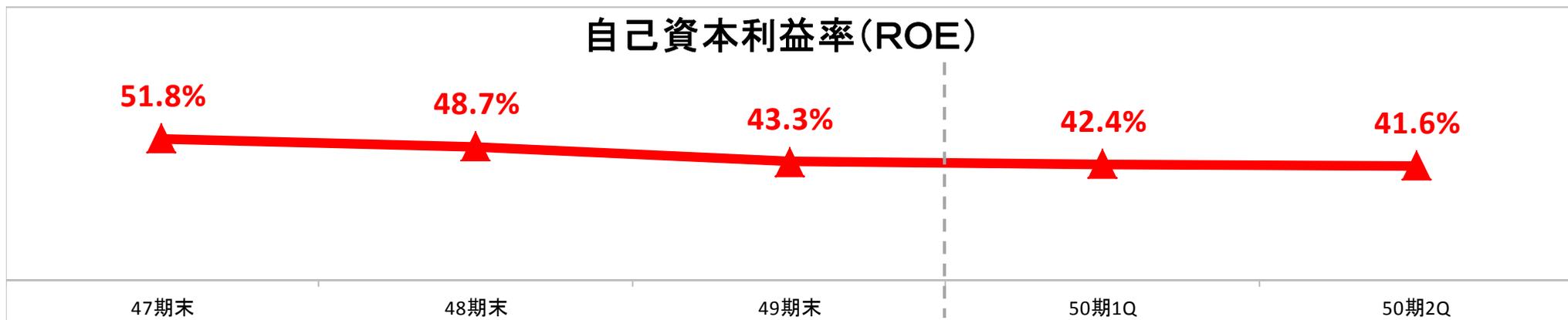
着実な利益創出力向上



バランスシート整理により資産効率向上



借入圧縮による安全性向上



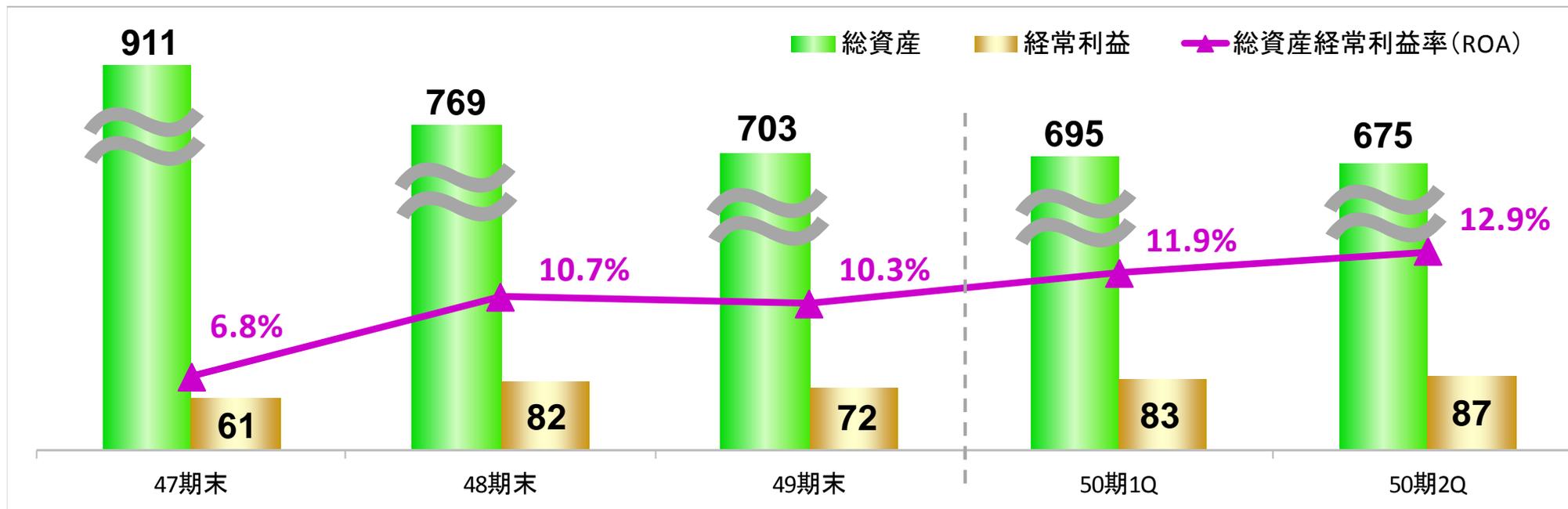
財務レバレッジ低下によりROEは減少傾向も、引き続き40%超を維持

※自己資本利益率(ROE) = 売上高当期純利益率 × 総資産回転率 × 財務レバレッジ

※50期2Qの売上高及び当期純利益は直近12ヶ月ベース、総資産及び自己資本は49期2Qと50期2Qの平均値

|| 財務／経営指標関連 || 総資産経常利益率(ROA)

【億円、%】



※総資産経常利益率(ROA) = 経常利益 / 期中平均総資産 × 100

※50期2Qの経常利益は直近12ヶ月ベース

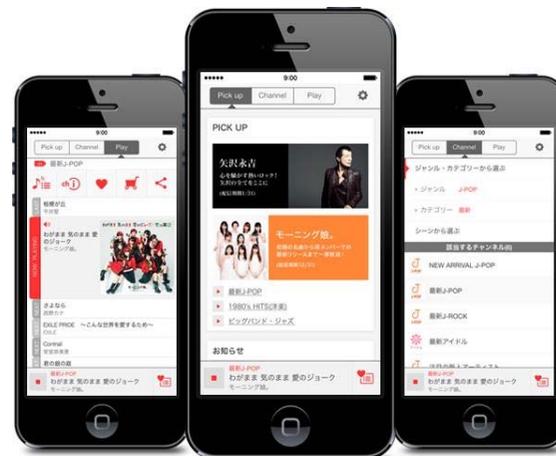
※50期2Qの期中平均総資産は49期2Qと50期2Qの平均値

**経常利益は安定的に微増傾向で推移、
継続したバランスシートのスリム化によりROAは増加傾向**

|| 事業関連 || 音楽配信事業関連(新サービス) ※一部再掲

■2013年12月3日に、スマートフォン向け音楽配信の新サービス「スマホでUSEN」を開始

- 50年の音楽配信事業ノウハウを活かしたスマホ向け月額音楽配信サービスを発表。ラジオ型配信のスタイルにこだわり、575チャンネルを取り揃えてスタート
- 最新J-POPや懐かしの洋楽、外国語学習、ランニング向けBGMなどバラエティに富んだ内容を月額490円(税抜)で提供



(※後発事象)

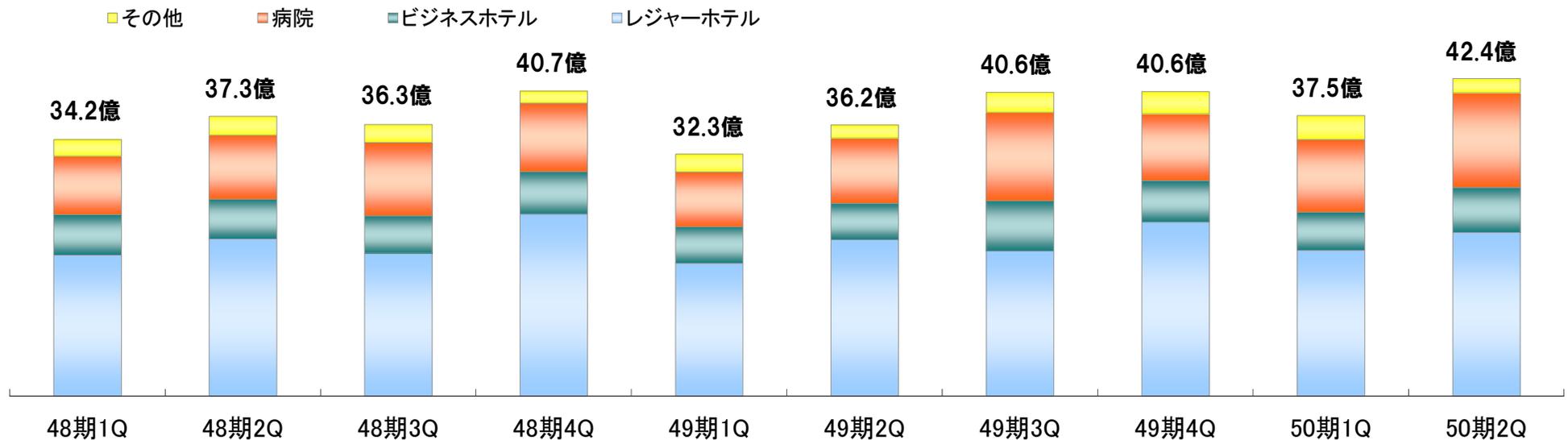
- この4月からは150以上のチャンネルを追加して総チャンネルは700超に、加えてチャンネルランキングや視聴履歴などの機能を拡充しより魅力的なサービスへ



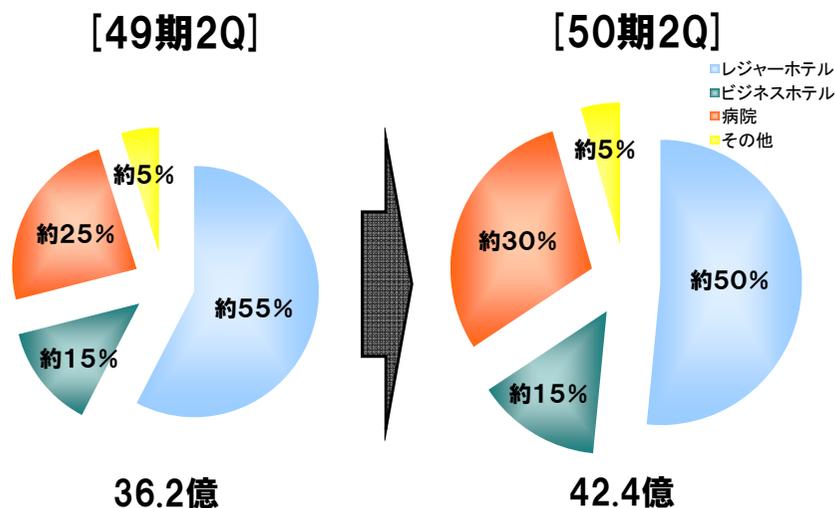
※12月3日の記者発表会の様子

|| 事業関連 || 業務用システム事業(売上ポートフォリオ)

■ 四半期推移



■ 前期比

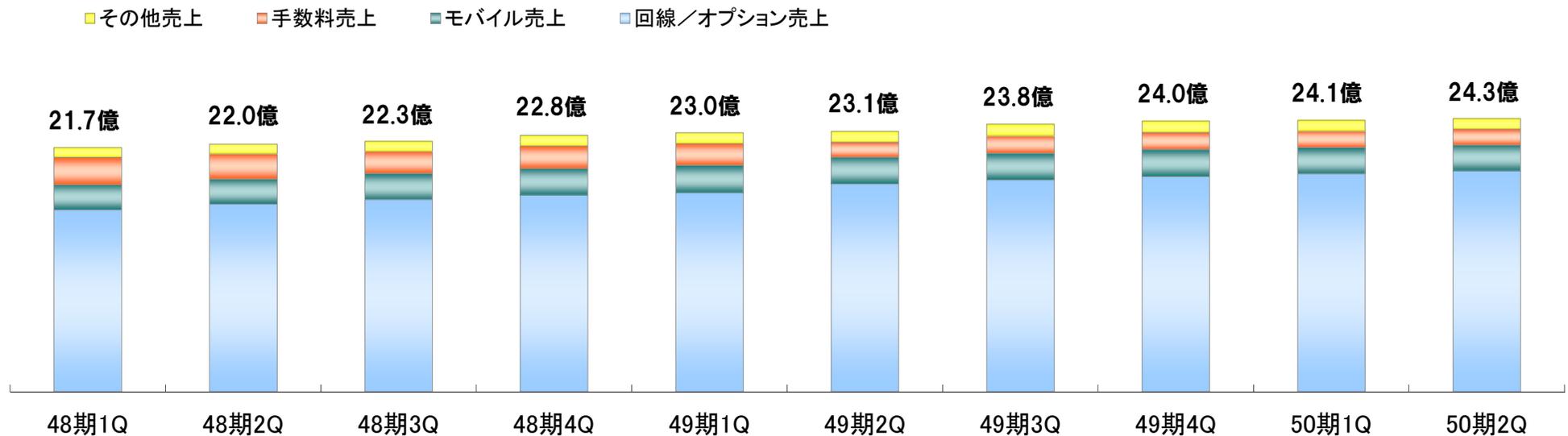


○ 病院事業が大幅伸長、四半期売上は直近2年半で最高値

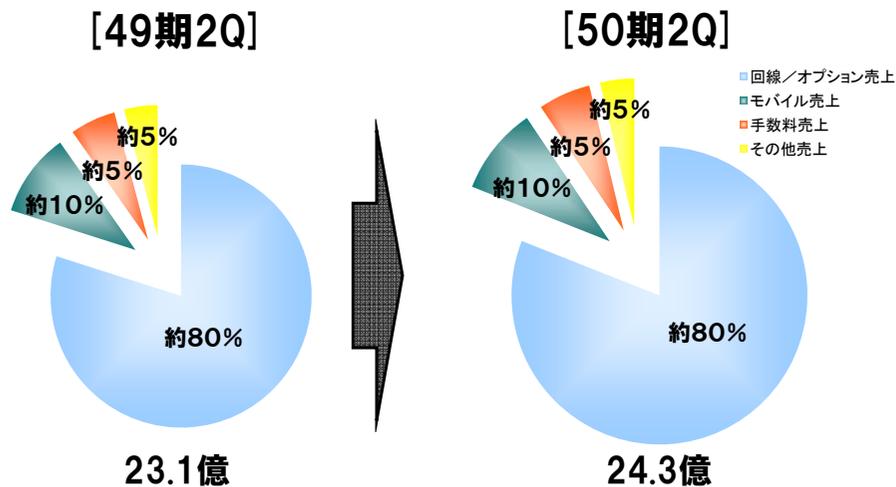
- 本格的な普及期に入っている病院事業が順調に伸長し、アルメックスの全社売上に占める構成割合はほぼ30%に
- レジャーホテル、ビジネスホテルも前四半期比で増収を達成
- 主要3事業が堅調に推移し、直近2年半で最高の四半期売上を計上、上期ベースでも過去2年で最高

|| 事業関連 || ICT事業(売上ポートフォリオ)

■ 四半期推移



■ 前期比



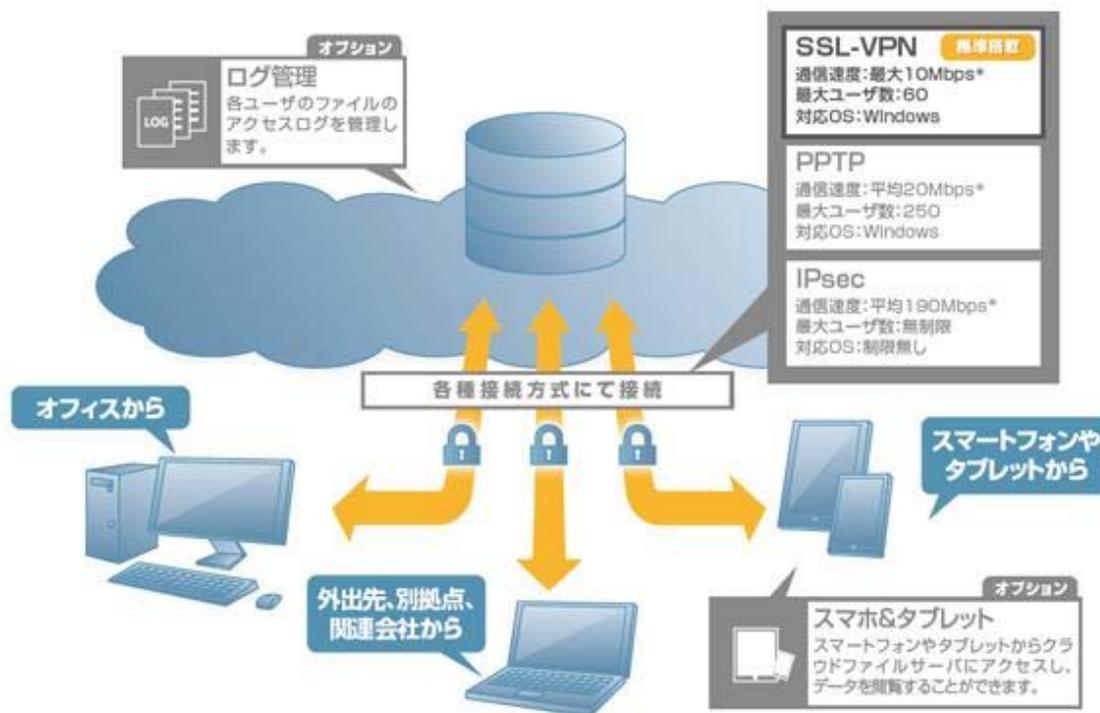
○ 増収基調確保も、価格競争が厳しい事業環境に

- 回線／オプションサービスは引き続き増収基調を堅持
- その他の各売上ポートフォリオは横ばいから微減のトレンドが継続
- 2月3日より、新サービスとしてクラウド型ストレージサービス『クラウドファイルサーバ』の販売を開始、拡販を図る

|| 事業関連 || ICT事業(新サービス)

■2014年2月3日より、クラウド型ストレージサービス『クラウドファイルサーバ』の販売開始

- 近年、動画や写真など大容量データを取り扱う企業が増加しクラウドを基盤とするサービスへの需要が高まっていることを受け、クラウド上の仮想環境におけるファイルサーバ構築、運用管理をアウトソーシングするサービスとして『クラウドファイルサーバ』を提供開始
- 事業継続計画(BCP)やスマートフォン・タブレット対応など、自社で実施した場合のリスクや負担を解決



|| 第2四半期TOPIX || IR/PR関連

>> 音楽配信事業関連

2013年12月 ●USEN音楽放送 2013年の年間総合ランキング発表

2014年2月 ●オフィス向け音楽放送『SDO』1周年記念キャンペーン実施

>> グルメサイト「ヒトサラ」関連

2013年12月 ●初のベストを発表 Best Chef & Restaurant

>> IR関連

2014年2月 ●現行シンジケートローンの総額借換え、減資／準備金減額を含む資本勘定整理、優先株式のリプレイス等の財務・資本施策につき社内決議、プレスリリース

(※後発事象)

2014年3月 ●上記の財務・資本施策に係る臨時株主総会、普通株主による種類株主総会を開催

2014年4月 ●単元株式を10株から100株へ変更

|| 第2四半期TOPIX || 音楽配信事業関連

▶▶ 2013年12月11日 当社にて年間ランキングの表彰式を開催

- 当日は赤坂泰彦氏の司会により、
2013年間USEN HIT J-POPランキング及び
USEN HIT 洋楽ランキングTOP10の発表を実施しました。
ゲストとしてJ-POPランキング1位を獲得した
秦基博さんが登場しました。



※12月11日の表彰式の様子

▶▶ 2014年2月12日 SDO1周年を記念して、集中力を高める音楽を無料提供

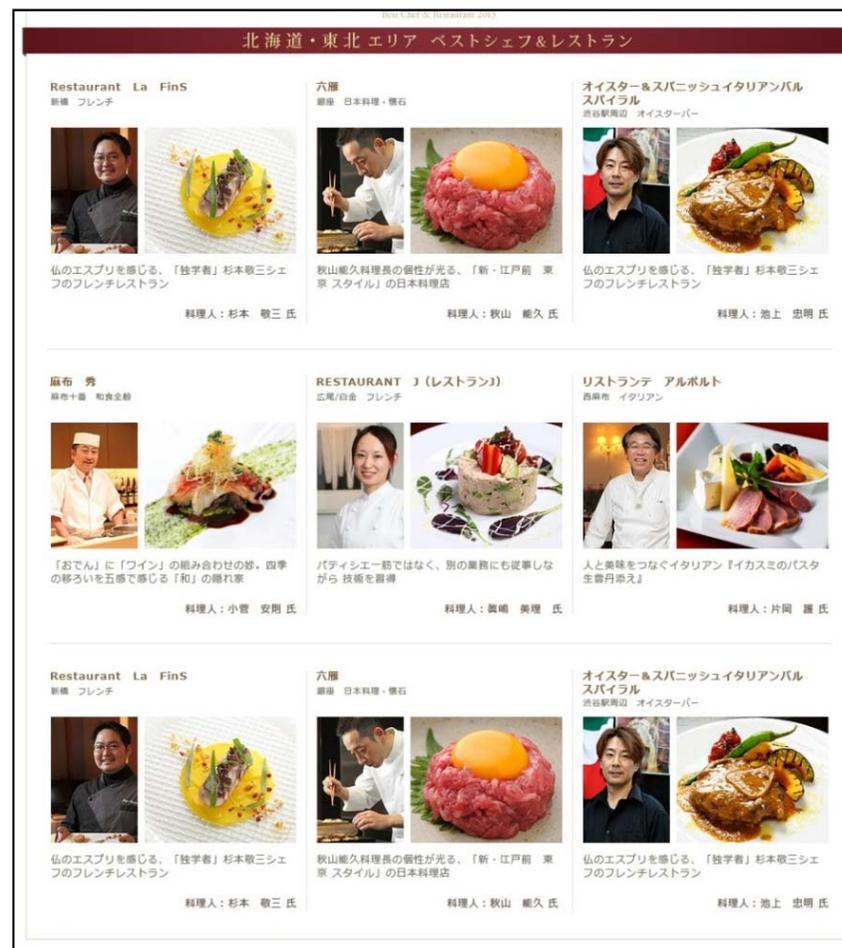
- オフィス向け音楽放送「Sound Design for OFFICE(SDO)」の
サービス開始1周年を記念して、集中力を高める楽曲2曲を
期間限定で無料配信しました。



|| 第2四半期TOPIX || グルメサイト「ヒトサラ」関連

▶▶▶ 2013年12月20日 ヒトサラ初の『Best Chef & Restaurant』を発表

—2013年締めくくりのタイミングに、料理人(ヒト)の顔が見え料理(サラ)の詳細や食材の安全性が
しっかり伝わると判断した飲食店からアクセス数を重視した独自基準で100店舗を選出、地域別で紹介



|| 第2四半期TOPIX || IR関連

▶▶ 2014年2月3日 現行シンジケートローンの総額借換え、減資／準備金減額を含む資本勘定整理、優先株式のリプレイス等の財務・資本施策につき社内決議、プレスリリース

ー同日開催の取締役会において、概要以下に係る財務・資本施策の実行について社内決議

- ① 現行シンジケートローンの総額借換えのため、新たに株式会社みずほ銀行及びドイツ銀行東京支店をアレンジャーとして21金融機関との間で新シンジケートローン契約を締結し280億円を新規調達
- ② 資本金及び資本準備金の額を減少、その他資本剰余金を増加させることで既発行の第1種優先株式を取得するために会社法上必要な分配可能額を確保
- ③ 上記第1種優先株式の全株について、金銭を対価とする取得条項に基づき取得した上で消却
- ④ 第1種優先株式の取得原資として、MCo3号投資事業有限責任組合ほか2社を割当先とする第2種優先株式を発行、払込総額50億円を調達
- ⑤ 東京証券取引所の要請を受け、単元株式数を現行の10株から100株へ変更するための定款変更
- ⑥ 経営体制強化を企図し、新たに取締役候補者として宇野康秀氏を内定

※後発事象として、2014年3月28日の臨時株主総会及び普通株主による種類株主総会において本施策に係る議案を決議、上記の全てにつき実行・効力発生済み

|| 免責事項 ||

本資料は、信頼できると思われる各種数値に基づいて作成されておりますが、その正確性／完全性を保証するものではありません。

本資料に記載されている、USENの計画／戦略等のうち歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断に基づいております。実際の業績はさまざまな重要な要素によりこれらの業績見通しとは異なる結果となりうる事をご承知置き下さい。

本資料は、投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成しております。本資料に記載されるいかなる情報も、投資勧誘を目的としたものではありません。